

三木町就学前の子どもの教育・保育のあり方検討委員会
第6回会議議事概要

- 1 日 時 令和2年12月16日（水）
- 2 開 会 午前10時00分
- 3 閉 会 午前11時50分
- 4 場 所 三木町役場会議室棟 第3・4会議室
- 5 出席者（委員）津山勝義、阿野秋子、杉山恵子、石濱敏男、大森智秋、
松隈由可、上岡佳代、山地茂之、穴吹直子、久米美佳、高松和範、
馬場正光、伊藤町長、森教育長（事務局）こども課：美馬一生、
塩津利幸、宮武尚美、大下美幸、安西美香、道官丈晴、内田博子

6 会議経過

- (1) 開会
- (2) 町長あいさつ
- (3) 議事

① 再編具体案の検討について

資料1及び2において、就学前児童が保育施設等を利用している現状を確認し、子どもの人数は減少しているものの、保育施設等の利用率は上昇しており、特に0歳児から3歳児の保育施設等の利用ニーズが増加傾向にあることを確認した。また、町内各校区ごとの児童の施設利用状況から、平井校区以外の校区においては、校区内にある保育施設等を利用する児童の割合が低いことを確認した。資料3では、公立幼稚園で実施している預かり保育制度について理解するとともに、その利用状況から、近年幼稚園を利用する保護者の多くが幼児教育と保育時間の両方を求める傾向にあることを確認した。資料4では、幼稚園・保育所・認定こども園における職員配置の基準や施設設備等の基準を比較し、施設の区分に応じて様々な基準が定められていることを確認した。資料5では、現在整備されている公共施設の効率的な管理運用に向けて令和2年3月に策定された「三木町公共施設個別施設計画」において、公立の幼稚園・保育所の今後の管理運営の基本的な方針を確認し、町として引き続き安心安全面を考慮し、効率的かつ効果的な維持修繕を行いながらも、少子化の進展に応じて、認定こども園化を含めた統廃合や再編等を検討する方針であることを確認した。資料6では、令和3年度当初にお

ける幼稚園・保育所の利用申込状況を確認し、依然として幼稚園と保育所のアンバランスな利用状況は続くが、申込数については、昨年度と比較して幼稚園・保育所ともに減少していることを確認した。資料7では、これまでの本委員会での検討内容と中間答申の内容を踏まえた公立幼稚園・保育所の再編イメージを確認した。各委員から出された意見等の主な内容は下記のとおり。

- ・ 中間答申での分園式認定こども園は、白山幼稚園と下高岡保育所の施設の有効活用となるが、きょうだい児童の送迎問題や進入路の狭さといった課題は残る。
- ・ 田中幼稚園はとてもしっかりとした幼稚園活動を行っているが、やはり園児数の減少が課題となっており、教育効果の高い活動を行うためには一定数の園児数が必要と思われる。
- ・ 神山保育所についても、保育所として活性化しているが、立地が山間部であるため、送迎については保護者の負担となっている。
- ・ 幼稚園及び保育所と小学校区を関連付ける必要はないが、小1プロブレムを考慮すると、小学校との交流活動促進は望ましく、神山保育所は立地的にきびしいと思われる。
- ・ 平井校区は、校区内の児童数と施設規模のバランスが良いが、氷上校区は校区内で受け入れできる施設が足りていない。また、白山校区についても資料で確認すると比較的バランスは良いと思われるが、神山保育所は校区の中心部に立地していないので、送迎の負担といった課題がある。
- ・ 新たに整備されたししの子幼稚園の充実した施設を考慮すると、他施設との格差が大きいため、町南部エリアにも保育の需要だけでなく、幼児教育の大切さも考慮した新たな施設を整備し、均衡を図ってはどうか。
- ・ 現地視察等を通じて公立職員の資質は素晴らしいと感じているので、公立施設の規模や設備のギャップを解消することが望ましい。また、新たな施設の検討にあたっては、施設の規模や設備のみならず、地域のニーズや送迎の負担を考慮して、建設場所についても慎重に決定してほしい。

② その他

(次回の進め方)

- ・ 検討事項は最終答申（案）とする。
- ・ 次回の委員会の開催予定は令和3年1月を予定。

7 配布資料

- ・ 【資料1】 就学前児童の保育施設等利用状況について(令和2年12月1日時点)
- ・ 【資料2】 校区ごとの保育施設等の利用状況について(令和2年12月1日時点)
- ・ 【資料3】 公立幼稚園における預かり保育について
- ・ 【資料4】 幼稚園・保育所・認定こども園の基準比較(職員配置・施設設備等)
- ・ 【資料5】 三木町公共施設個別施設計画(抜粋)
- ・ 【資料6】 令和3年度当初利用申込数及び年齢内訳(令和2年12月1日時点)
- ・ 【資料7】 公立幼稚園・保育所再編イメージ

以上